

ニューガラスフォーラム

創立10周年を迎えて

(社)ニューガラスフォーラム

会 長 鈴 木 哲 夫



☆新市場の創出を果たした10周年

私が日本硝子製品工業会の会長の時に、ガラス産業の将来を考える勉強会が工業会のなかに設置され、いろいろと議論を行っていました。当時はガラス産業は成熟化したといわれ、今後何をすべきか皆が真剣に考えていました。また、情報通信分野の第一弾として光ファイバーが注目を集め、本来ならガラスメーカーが取り組むべき開発を電線メーカー各社に先を越されてしまったということもきっかけとなり新しいガラス産業、つまり“ニューガラス”に業界をあげて取り組んでいこうという結論に達したのです。

そこで生まれたのが「ニューガラスフォーラム」でした。板ガラスをはじめとしたガラス製品メーカーのみならず、ユーザー業界、大学の先生、国の研究機関にも手助けしてもらい、1985年に設立したのです。

その当時は、ファインセラミックスをはじめ新金属材料、機能性高分子材料など新素材ブームの真っ只中にあり、ニューガラスもエレクトロニクスをはじめ情報・通信、バイオテクノロジーなど先端産業を支える新素材として大変注目を集めました。

そして、今年、フォーラム設立から10年を迎えるわけですが、期待通りニューガラスは着実に新しい市場を創り出してきたといえるでしょう。

ただこの間、わが国においてどのような発見、開発が実際にあったのか、そしてそれが今後どのような分野で花が開くのかを知ることが大切で、10周年を期して是非ともこれらを体系的に整理したいと思っています。

☆基礎研究重視で独自性を追求

ガラス産業は成熟化したといわれますが、私自身はむしろ技術開発といった面ではまだやり残したことがあるとの認識を持っています。製造法も、ゾルゲル法による溶液から、あるいはCVD法による気体からといったように多彩で、しかもガラスの本質はアモルファスでいろいろな元素を取り込んでいくことができます。これは、他の素材にはない大きな特徴だと思います。

これらガラスの特徴を活かす意味からも、今後は基礎的な研究を重視していきたい。これまで、日本のガラス産業はその技術のほとんどを海外からの導入に依存してきましたが、ニューガラス産業においてはわが国のオリジナルな技術を創り出すべきだと考えています。そのためにも、ガラスの研究者をもっと増やしていきたい。大学との連携を含めて今後、議論が必要なテーマだと思います。

☆10周年記念事業

「21世紀を拓くニューガラス」を統一テーマに定め、国内外の有力な研究者に集まってもらい「国際シンポジウム」を開催します。このほかにもニューガラス産業のわかりやすいガイドブックを作ったり、産業の発展に貢献された方々に感謝状を贈呈することも計画しています。

とにかく今年は過去10年の歩みをしっかりと見つめ、今後10年間何をすべきかをじっくり議論する年にしたいと考えています。